

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 026

(2020/21年度 USDA 米国農務省 9月11日発表)

[ハイライト] ①今年度の世界穀物需給見通しは5月以来各品目とも生産/消費/貿易量が大きく拡大し多くは史上最高の数値を示していたが、収穫前のここに来ていくつかの波乱要因が出てきている。②一つは、主産地である米国中西部における高温乾燥とハリケーンによる被害で豊作予想だったコーン/大豆とも反収が前月比減少(コーン 181.8⇒178.5、大豆 53.3⇒51.9bu/acre)し、別添「需給表」にあるように生産量が前月比コーンが10百万ト減、大豆が3百万トン減少した。③もう一つは、米中対立激化の中でも2月の米中「第一段階合意」を念頭に中国の米国産大豆買い付けが堅調なことである。市場の見方はいろいろあるがARGの大豆輸出税引き上げやBRAの輸出価格高騰から今年度は中国は米国産大豆を何と史上最高の約4000万トを購入という情報もある。④また、中国では北部干魃や長江流域の洪水、バッタ被害などによって食糧需給関係は厳しいという見方もありコーン3000万ト輸入(USDA予測は700万トだが)という情報も流れている。中国の食糧供給不足は都市部人口増/肉食普及等によって今後深刻化するという見方もあり習近平の「食べ残し禁止令」はそれを裏付けていると思われる。⑤中国はKKR中国特集(1)の中でも詳細述べたが2019/20年度で見ると小麦/コーン/コメは同国の年間生産分に等しい在庫を保持しており、全体では世界穀物在庫の55%に当たる478百万ト(小麦146、コーン196、コメ118、大豆19百万ト)を保有している。ただ、現在の輸入拡大情報を見るとこの在庫数字が正しいのか、あるいは予想以上に穀物需給が逼迫しているのか…?やはり14億人の人口を抱える中国は今後とも世界食糧需給の波乱要因であることは間違いない。⑥このような状況の中で、マーケットも久方ぶりに上昇し、コーンは\$3.47と前月比¢39/bu上昇、小麦は\$5.40と¢40/bu上昇、大豆は\$9.70と丁度\$1上昇し一時的に\$10の大台に乗せる局面も出てきた。

1、世界穀物需給の概要(大豆除く)

- ① 生産量: 2,730百万ト(前年比2.4%増、前月比±0)
- ② 消費量: 2,708百万ト(前年比2.0%増、前月比±0)
- ③ 貿易量: 458百万ト(前年比4.1%増、前月比1.1%増)

2、とうもろこし

- ① 生産量: 1,162百万ト(前年比4.5%増、前月比0.7%減)
- ② 消費量: 1,164百万ト(前年比3.6%増、前月比±0)
- ③ 貿易量: 186百万ト(前年比9.2%増、前月比0.8%増)
- ④ 概況: 米国生産見通しの大幅減少(388⇒378百万ト)となったがBRA等の増産があり世界生産は11億トを超え史上最高となる予想は変わらず消費量も米国のエタノール需要減があるが中国の需要増等から増加見込。価格は\$3.47/Bu(前年\$3.43/Bu、前月\$3.08/Bu)と前月比¢39上昇した。

3、小麦

- ① 生産量: 770百万ト(前年比0.9%増、前月比0.6%増)
- ② 消費量: 751百万ト(前年比0.4%増、前月比0.1%増)
- ③ 貿易量: 189百万ト(前年比1.0%減、前月比0.8%増)
- ④ 概況: 世界生産量はARGの乾燥による減産あるが豪州/カナダは好天に恵まれ順調に生産を伸ばしており770百万トと史上最高見通し。消費量も中国が増加することもありこちらも史上最高見通し。貿易量は前年より若干減少したが消費の世界的裾野は間違いなく広がっている。価格は\$5.40/Bu(前年\$4.60/Bu、前月\$4.96/Bu)と前月比¢44上昇した。

4、大豆

- ① 生産量: 370百万ト(前年比9.6%増、前月比0.2%減)
- ② 消費量: 369百万ト(前年比4.9%増、前月比0.3%増)
- ③ 貿易量: 166百万ト(前年比0.3%増、前月比0.5%増)
- ④ 概況: 米国生産量はハリケーンによる反収減のため前月比3百万ト(120⇒117百万ト)減産となったが逆にBRAが増産見通しであり全体では前年比10%近い増産となる見通しである。注目の中国輸入見通しは99百万トと前年89百万トから大幅増の見通しであり価格を押し上げている。価格は\$9.70/Bu(前年\$8.45/Bu、前月\$8.70/Bu)と前月比\$1上昇した。

世界の穀物・大豆等の需給

2020年9月11日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2018/19	2,625	3,448	429	2,640	809		
	2019/20	2,666	3,475	440	2,656	819		
	2020/21	8月	2,731	3,554	453	2,704	850	
		9月	2,730	3,549	458	2,708	841	
小麦	2018/19	731	1,019	174	735	284		
	2019/20	764	1,048	191	748	300		
	2020/21	8月	766	1,067	188	750	317	
		9月	770	1,070	189	751	319	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2018/19	1,398	1,768	212	1,420	348		
	2019/20	1,407	1,754	206	1,417	338		
	2020/21	8月	1,465	1,806	221	1,457	348	
		9月	1,460	1,798	224	1,461	337	
大豆	2018/19	361	460	148	347	113		
	2019/20	337	450	166	354	96		
	2020/21	8月	370	466	165	368	98	
		9月	370	466	166	369	97	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	311.30	1,171.03	178.94	1,164.87	184.66	317.46
	9月	309.15	1,162.38	179.34	1,164.74	186.03	306.79
アメリカ	8月	56.59	388.08	0.64	318.79	56.52	70.01
	9月	57.23	378.47	0.64	313.70	59.06	63.57
アルゼンチン	8月	1.87	50.00	0.01	15.00	34.00	2.88
	9月	1.87	50.00	0.01	15.00	34.00	2.88
ブラジル	8月	5.49	107.00	1.50	68.00	38.00	7.99
	9月	5.49	110.00	1.50	70.00	39.00	7.99
EU	8月	7.23	67.80	25.00	89.00	3.70	7.33
	9月	7.23	66.30	25.00	88.50	2.70	7.33
日本	8月	1.44	0.00	16.00	16.00	0.00	1.45
	9月	1.44	0.00	16.00	16.00	0.00	1.45
中国	8月	204.07	260.00	7.00	277.00	0.02	194.05
	9月	201.07	260.00	7.00	279.00	0.02	189.05
ウクライナ、 ロシア	8月	1.75	54.80	0.06	16.20	37.90	2.50
	9月	1.85	53.50	0.06	16.50	36.40	2.50

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	95.85	370.40	162.49	367.90	165.49	95.36
	9月	96.01	369.74	163.25	369.07	166.34	93.59
アメリカ	8月	16.73	120.42	0.41	63.14	57.83	16.59
	9月	15.64	117.38	0.41	63.07	57.83	12.52
アルゼンチン	8月	25.70	53.50	4.00	50.20	7.50	25.50
	9月	26.40	53.50	4.00	49.20	7.50	27.20
ブラジル	8月	19.10	131.00	0.15	47.25	84.00	19.00
	9月	19.43	133.00	0.40	48.15	85.00	19.68
中国	8月	27.26	17.50	99.00	116.40	0.10	27.26
	9月	27.26	17.50	99.00	116.40	0.10	27.26
EU	8月	1.98	2.75	14.90	17.43	0.20	2.00
	9月	1.96	2.80	14.90	17.63	0.25	1.79

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	300.91	766.03	183.73	750.14	187.99	316.79
	9月	299.78	770.49	185.29	750.90	189.44	319.37
アメリカ	8月	28.41	50.01	3.54	30.24	26.54	25.19
	9月	28.41	50.01	3.54	30.24	26.54	25.19
アルゼンチン	8月	1.69	20.50	0.01	6.20	14.00	1.99
	9月	1.69	19.50	0.01	6.05	13.50	1.64
オーストラリア	8月	3.49	26.00	0.20	7.00	17.50	5.19
	9月	3.49	28.50	0.20	7.50	19.00	5.69
カナダ	8月	5.26	34.00	0.45	9.70	24.50	5.51
	9月	5.03	36.00	0.45	10.00	25.00	6.48
EU	8月	15.36	135.50	5.50	117.30	25.50	13.56
	9月	14.83	136.15	5.50	117.30	25.50	13.68
中国	8月	151.68	136.00	6.00	130.00	1.00	162.68
	9月	151.68	136.00	7.00	130.00	1.00	163.68
インド	8月	24.00	107.18	0.03	99.50	1.00	30.71
	9月	23.99	107.59	0.03	99.50	1.00	31.11
ロシア	8月	7.48	78.00	0.50	40.50	37.50	7.98
	9月	7.48	78.00	0.50	40.50	37.50	7.98
ウクライナ	8月	1.16	27.00	0.08	8.60	18.00	1.63
	9月	1.15	27.00	0.08	8.60	18.00	1.62

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

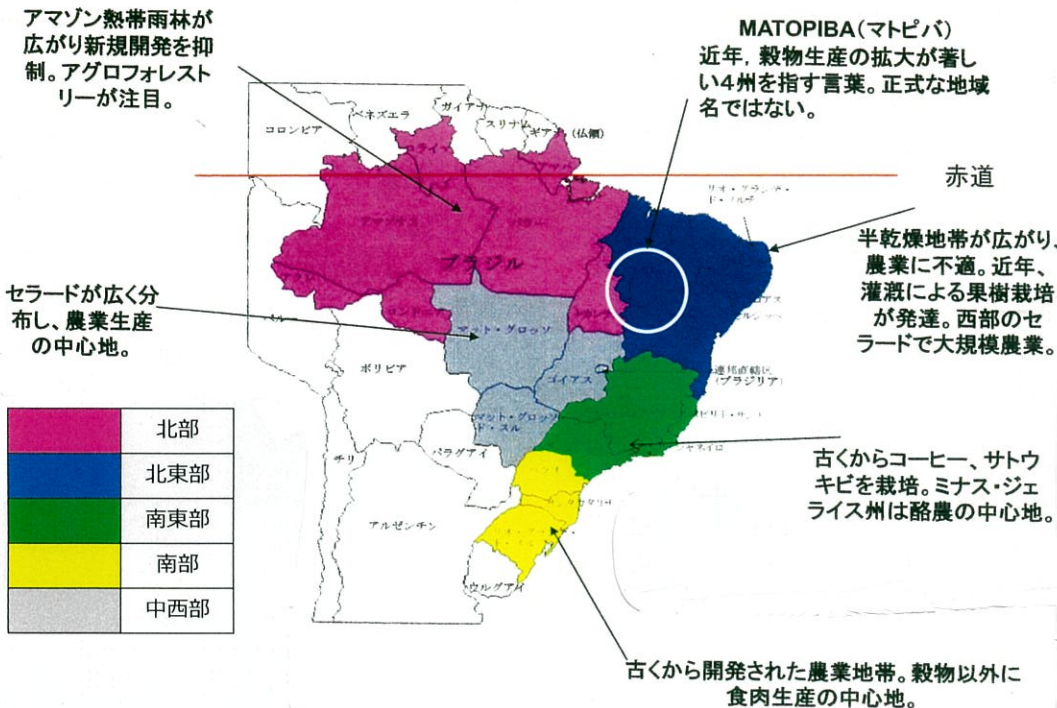
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。

躍進する世界の穀物生産/輸出大国ブラジルの現状と課題(2)

- ①ブラジルの農業生産の地域区分は、アマゾン熱帯雨林～セラード/大西洋沿岸部森林等の「生態系区分」をベースに〔図1〕にあるように北部/北東部/中西部/南東部/南部の5つに大別される。国土利用実態は森林/保護地域が66%、採草放牧地21%、耕地は僅か9% (76.5万平方キ。)程度とまだ少ないが各地域別に気候風土や土地条件に応じた極めて多彩な農産物生産がおこなわれている。その地域別特徴は〔図1〕に記載されている通りである。
- ②この中で特に注目すべき地域は3か所。①近年、大豆/コーン等の穀物生産が飛躍的に増大しているマトグロッソ州を中心とした「中西部」。②リオデジャネイロ/サンパウロ近郊のミナス・ジュライス州を中心に伝統的なコーヒー/サトウキビを生産し近年、大豆/コーンを拡大させている「南東部」。③開拓当初から開発された農業地帯で近年穀物生産と連動した食肉生産加工が盛んなパラナ州を中心とした「南部」。〔表1〕に示した通り、その3地域でブラジル農業生産の約85%を占めている。
- ③また、特にその中でブラジルの穀物生産を飛躍的に拡大し生産構造や物流まで含めて大きく変貌をとげたのは西部マトグロッソ州・ゴイアス州・マトグロッソスルの3州とそれに連なる〔図1〕に示された北東部マラニオン州など4州からなる「MATOPIBA」(マトピバ)における農地開発と緑の農業革命である。この地域は、いずれもポルトガル語で「閉ざされた」と言う意味の国土の約24%を占めるセラード(Cerrado)で強い酸性土壌のため「不毛の地」と言われた地域である。この地域の開発の発端は、1972年の配合飼料の蛋白原料である南米アンチョビの不漁と米国大豆不作による禁輸措置が大きな要因となっている。その状況の中、日本政府は大豆の新たな供給基地としてブラジル政府のセラード開発計画を大いに支援し重要な役割を果たしたことは記憶に新しい。
- ④セラード地域は、面積約200万平方キロ、主に南緯10～20度の標高600mのブラジル高原に位置し、年間平均気温26度、気候的には灌木/牧草が茂る乾燥サバンナに分類される。ここに1979年～2001年まで3期22年に渡り「セラード農業開発協力事業」が日本のODA支援を受け600億円を投じ(日本約半額)、JICAから農業技術者115名も現地に張り付いた。そこで新たに開発された土地は約1200万ha(日本耕地面積の約3倍)。セラードがこうして大規模に開発された要因は、①極めて広大/平坦で大規模機械化が可能、②かつ一経営単位が10万haを超える大規模経営を展開、③セラードに適合した大豆種子の開発、④政府の農業機械/肥料/農薬等の資材に対する低利融資、⑤需要面では何と言っても中国の大豆輸入拡大等があげられる。2000年代に入り中西部マトグロッソ州を中心とした大豆/コーンの生産はブラジル全体の50%前後を占めるまでに拡大している。また今年度のブラジル全体の生産予測は、大豆130百万トン、コーン110百万トン、輸出は大豆85百万トン、コーン39百万トンと世界の穀物需給の中では不動の地位を占め、その拡大は著しい。(詳細次回)
- ⑤ブラジルの産業/輸出構造は農産物/鉄鉱石輸出という極めてモノカルチャー的側面が強いが、農産物については単一作物依存から〔表1〕に網羅したように複数の農産物を生産/大量輸出する農業大国へと変貌を遂げてきている。具体的には、主要6品目の生産量/輸出量の世界ランキングとシェアは以下の通り(2016/17年)。
 {コーヒー}⇒生産量(1)35.9%・輸出量(1)27.3%、{砂糖}⇒(1)21.9%・(1)46.9%、{オレンジ}⇒(1)54.6%・(1)73.4%、{大豆}⇒(2)32.5%・(1)42.8%、{コーン}⇒(3)9.2%・(2)22.0%
 {綿花}⇒(5)6.6%・(4)9.6%
 ただ、前述した大豆/コーン等の穀物生産拡大によってブラジル国内農産物生産額に占めるその割合は2015年以降約50%に近づいているのが特徴である。その意味ではかなり多様化した農産物生産/輸出も再度「モノカルチャー」的傾向を強めつつあるように思える。単一商品の資本主義的大規模生産が展開されるようになるとそれは必然的結果かも知れない。

〔別図1〕 ブラジルの地域区分と農業



〔別表1〕 地域別農産物生産額ランキング (2016年)

単位 (千レアル)	北部			北東部			中西部		
	農産物	生産額	割合	農産物	生産額	割合	農産物	生産額	割合
1	大豆	4,404,165	26.6%	大豆	5,551,985	17.8%	大豆	46,061,761	54.9%
2	キャッサバ	3,762,760	22.7%	サトウキビ	4,656,463	15.0%	トウモロコシ	14,909,900	17.8%
3	トウモロコシ	1,208,031	7.3%	バナナ	2,734,344	8.8%	サトウキビ	10,899,828	13.0%
4	バナナ	1,182,645	7.1%	トウモロコシ	2,344,637	7.5%	綿花	5,409,038	6.5%
5	カカオ	840,995	5.1%	キャッサバ	2,044,323	6.6%	フェイジョン	2,468,940	2.9%
6	胡椒	838,464	5.1%	綿花	1,358,927	4.4%	キャッサバ	762,682	0.9%
7	パイナップル	837,152	5.1%	フェイジョン	1,224,748	3.9%	コメ	539,241	0.6%
8	コメ	830,269	5.0%	カカオ	1,108,581	3.6%	トマト	502,057	0.6%
9	コーヒー	469,403	2.8%	コーヒー	894,695	2.9%	バナナ	336,640	0.4%
10	デンデヤシ	383,151	2.3%	パパイア	870,342	2.8%	ニンニク	291,421	0.3%
	その他	1,796,019	10.9%	その他	8,342,886	26.8%	その他	1,647,780	2.0%
	合計	16,553,054	100.0%	合計	31,131,931	100.0%	合計	83,829,288	100.0%

単位 (千レアル)	南東部			南部			ブラジル全体		
	農産物	生産額	割合	農産物	生産額	割合	農産物	生産額	割合
1	サトウキビ	32,615,642	33.7%	大豆	40,368,591	45.3%	大豆	104,898,732	33.0%
2	コーヒー	19,440,355	20.1%	トウモロコシ	12,227,628	13.7%	サトウキビ	51,600,903	16.3%
3	大豆	8,512,230	8.8%	コメ	7,041,838	7.9%	トウモロコシ	37,668,722	11.9%
4	トウモロコシ	6,978,526	7.2%	タバコ	5,678,897	6.4%	コーヒー	21,360,915	6.7%
5	オレンジ	6,660,800	6.9%	小麦	3,526,321	4.0%	キャッサバ	10,320,962	3.3%
6	フェイジョン	3,455,122	3.6%	サトウキビ	3,049,698	3.4%	フェイジョン	9,740,089	3.1%
7	トマト	3,195,133	3.3%	キャッサバ	2,687,888	3.0%	コメ	8,725,929	2.7%
8	バナナ	3,169,031	3.3%	フェイジョン	2,394,879	2.7%	オレンジ	8,380,099	2.6%
9	ジャガイモ	2,923,979	3.0%	ジャガイモ	2,250,954	2.5%	バナナ	8,313,352	2.6%
10	キャッサバ	1,063,309	1.1%	リンゴ	1,624,846	1.8%	綿花	6,909,528	2.2%
	その他	8,799,939	9.1%	その他	8,275,623	9.3%	その他	49,536,271	15.6%
	合計	96,814,066	100.0%	合計	89,127,163	100.0%	合計	317,455,502	100.0%

※資料：IBGE資料から引用